

2026年6月22日

株式会社ヤマウラ

(コード番号:1780 東証プライム市場)

ニュースリリース

長野県内初^(※)、遠隔操作技術を土工事に導入開始 ～安全性・生産性の向上、人手不足・多様な働き方等への対応を強化～

総合建設業・製造業の株式会社ヤマウラ（本社：長野県駒ヶ根市、代表取締役社長：山浦正貴、以下「当社」）は、このたび、土木建築工事業の有限会社松崎重機（本社：駒ヶ根市、代表取締役：松崎哲也）の技術協力を得て、土工事に遠隔操作技術を導入しましたので、お知らせいたします。

(※) 当社調べ



レバーとペダルを使った遠隔操作で無人重機を操作（写真は松崎重機の事務所[㊟]と駒ヶ根市内の現場）

1. 導入の背景・概要

近年、建設業界においては少子高齢化を背景とする担い手不足、熟練技能者の減少、安全性確保への対応、生産性向上の必要性など、構造的な課題が顕在化しております。こうした課題に対して、国土交通省においても「i-Construction 2.0」を国家戦略として掲げ、建設現場の省人化・省力化等により生産性向上と働き方改革を推進しています。

当社は今回、松崎重機と技術連携し、建設機械の遠隔操作技術を土工事に試験導入し、有効性の検証を開始しました。

本技術は、建設機械の操作を現場外から行うことにより、作業員を危険が伴う環境から遠ざけるとともに、現場作業における時間や場所の制約から解放し、生産性向上につなげ

ることを目的としています。

2. 本技術の導入効果

主に下記の8項目を想定しています。

(1) 安全性の向上

遠隔操作により、危険を伴う現場環境に作業員が常時立ち入る必要性を低減。

(2) 人手不足への対応

建設現場常駐を前提としない新たな作業形態の構築により、人材不足への対応力強化。

(3) 業務効率化および生産性向上

オペレーターが現場に拘束されず、事務所等から操作できる体制の整備により、移動時間の削減と運用効率を向上。

(4) 複数現場への対応力向上

現場間の移動負担を軽減し、複数の施工現場を1箇所です率的に対応できる体制を構築。

(5) 労働環境の改善

真夏・真冬等の厳しい気象条件でも快適な屋内環境で機械操作が可能（就労環境改善）。

(6) 環境負荷の低減

オペレーターの現場間移動削減で、車両移動に伴うCO₂排出量を抑制。

(7) 採用力の強化

未経験者を含め老若男女、幅広い人材に対し、新たな就労機会を訴求。

(8) 多様な働き方への対応

育児・介護等の事情で現場常駐が難しい人材など、多様な人が就労しやすい環境を整備。

当社は本技術導入を通じて実用性を検証し、遠隔操作技術の活用拡大を図ることで、建設現場のDX推進による生産性向上および持続可能な施工体制を構築し、お客様満足度の追求、企業価値の向上を図ってまいります。

4. 今後の見通し

現時点において本件が当社連結業績に与える影響は軽微ですが、今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上

【株式会社ヤマウラについて】

創 業	1920（大正9）年
資本金	28億8,849万円
代表者	代表取締役社長 山浦正貴

上場市場 東京証券取引所プライム市場/名古屋証券取引所プレミア市場
事業内容 総合建設業・製造業として、建設事業（建築・土木）・エンジニアリング事業・
開発事業を展開
URL <https://www.yamaura.co.jp>

【本リリースに関するお問い合わせ】

株式会社ヤマウラ 経営戦略本部 IR 推進課 宮下

E-mail : ir@yamaura.co.jp